

Ⅲ 総括

1. 全体考察

■ 回答者について

回答者は女性の割合が5割以上と高くなっています。年齢では70歳以上の割合が2割以上と高くなっています。また、7割の人が、加古川市での居住年数が20年以上となっています。

職業については、「会社員、公務員」が約3割、「無職」が約2割となっています。通勤・通学をしている人の通学・通勤先は、約3割が市内、残りが市外となっています。また、通勤・通学をしている人の約3割は、「自動車」を利用しています。

■ 定住意向と幸福感について

7割以上の方が、加古川市での定住意向があると回答しています。男女差はうかがえませんが、若年層よりも高齢者層の方が、定住意向が強い傾向がみられます。地区別にみると、両荘地区、加古川北地区、加古川西地区において、高い定住意向がみられます。

定住意向のない人が転居したい理由としては、通勤、通学に不便であることや、レジャー・娯楽施設が少ないこと、買い物環境が充実していないことなどが挙げられています。性別でみると、男女ともに通勤、通学の不便さが挙げられています。地区によっても傾向は異なり、加古川北地区、志方地区、両荘地区において通勤、通学の不便さが多く挙げられています。

普段の生活の中で感じる幸福感については、8割以上の方が幸せを感じる（「感じる」「やや感じる」の合計）と回答しています。「幸せ」であるために重要だと思うこととしては、健康が約8割、家計が約6割となっています。年齢によって傾向が異なり、比較的若い世代では自由な時間や精神的なゆとり、30歳以上では家計や家族関係、高齢になるにつれて健康が重要視されています。

■ 満足度・重要度について

満足度では、「水道水の供給」や「下水道の整備」、「消防や救急・救命体制」、「鉄道の便利さ」などへの評価が高く、一方、「バスの便利さ」や「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「観光の振興」などへの評価は低くなっています。

重要度では、「安心できる医療体制」や「消防や救急・救命体制」、「水道水の供給」などが上位となっています。

重要度が高いが満足度が低い項目としては、「生活に身近な道路の安全性や便利さ」や「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「バスの便利さ」などが挙げられます。

■ 防災対策・防犯対策について

防災対策については、何の取組も行っていない人、家庭として取り組んでいるものがある人の割合がそれぞれ約4割となっています。防犯対策については、家庭として取組をしている割合が4割以上と高くなっています。一方、何の取組も行っていない人は約3割となっています。

■ コロナ禍における生活実態について

新型コロナウイルス感染症の拡大による生活の変化は、8割以上の人があった（「変化があった」「やや変化があった」の合計）と回答しています。男女差はうかがえませんが、性年代別にみると、男性30歳代・40歳代、女性40歳代・50歳代が9割を超えています。地区別にみると、浜の宮地区、加古川西地区、野口地区で、その割合が高くなっています。

コロナ禍による生活の変化があった人における生活の困りごとは、「人との交流機会の減少」が7割以上、「買い物等の外出の減少」が6割以上となっています。性別でみると、女性の方が「人との交流機会の減少」、「買い物等の外出の減少」とともに高くなっています。

ウィズコロナ、アフターコロナ社会の中で加古川市に期待することは、「医療機関への支援の充実」が最も高く、次いで、「失業者、低所得者への経済的支援」、「市民の感染防止対策の充実」となっています。

■ こころの健康状態について

睡眠の状況については、7割以上がとれている（「十分にとれている」「まあまあとれている」の合計）、約2割がとれていない（「とれていない」「あまりとれていない」の合計）と回答しています。とれていない割合について男女差はうかがえませんが、性年代別にみると、男性20歳代・40歳代、女性18・19歳が2割半ばから3割半ばとなっています。地区別にみると、野口地区、浜の宮地区において、その割合が高くなっています。

睡眠がとれていない人にとっての、その妨げとなる原因については、「仕事」「健康状態」が約4割、「家事」が2割以上となっています。女性よりも男性の方が「仕事」、男性よりも女性の方が「家事」の割合が高くなっています。性年代別にみると、「仕事」は男性30歳代・40歳代・50歳代で、「健康状態」は男性70歳以上、女性60歳代・70歳以上で高くなっています。

最近1ヵ月以内にストレスを感じたかについては、約7割が感じた（「よく感じた」「時々感じた」の合計）、約3割が感じなかった（「あまり感じなかった」「まったく感じなかった」の合計）と回答しています。男性よりも女性の方がストレスを感じた割合が高くなっており、性年代別では、女性20歳代・30歳代・40歳代、男性20歳代・40歳代が高くなっています。

■ 子育てと仕事に関することについて

子育てしやすいまちと感じる人（「感じる」「やや感じる」の合計）と、感じない人（「感じない」「あまり感じない」の合計）はそれぞれ約5割となっています。男性よりも女性の方が子育てしやすいまちと感じる人の割合が高く、性年代別にみると、男性30歳代や女性40歳代で高くなっています。地区別にみると、加古川地区、加古川北地区で、その割合が高くなっています。

■ 市民活動の参加状況・参加意向

市民活動に参加している人は、約1割となっています。女性よりも男性の方が、若年層よりも高齢者層の方が、参加している人が多い傾向がみられます。地区別にみると、両荘地区で、その割合が高くなっています。

今後の参加意向がある人（「ぜひ、参加したい」「機会があれば参加したい」の合計）は約5割となっており、参加していない人の中にも、参加意向のある人がいることがわかります。また、性別では男性よりも女性の方が参加意向のある人が多く、性年代別では女性18・19歳・50歳代、男性18・19歳で参加意向のある方の割合が高くなっています。

■ 市政に関する情報の入手方法や取組等の認知度について

8割以上の方が、市政に関する情報については「広報かこがわ」から入手していると回答しています。町内会の回覧からという回答も多く、男女ともに約5割となっています。年代別で見ると、「広報かこがわ」や「町内会の回覧など」、「新聞」は高齢となるほどよく利用されている傾向があり、一方、若年となるほど市政に関する情報を入手していない割合が高くなっています。「市ホームページ」は、30歳代・40歳代で割合が高くなっています。

市の取組等の認知度については、「見守りカメラ」や「加古川図書館移転」がよく知られており、認知度は約7割となっています。性別では、女性において「加古川図書館移転」や「子育てプラザ」の認知度が高くなっています。

■ 市や居住地域に対する誇りや愛着の程度

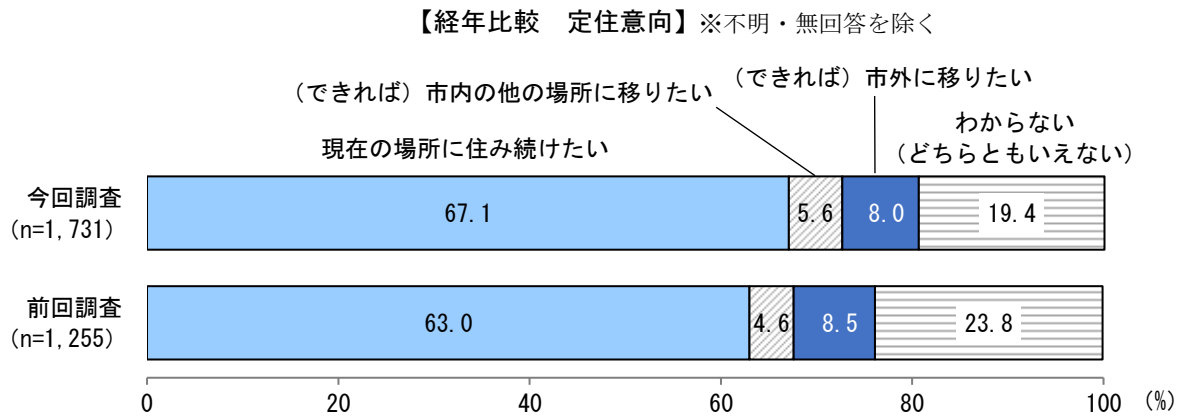
市や居住地域に対する誇りや愛着を感じている人（「強く感じている」「感じている」の合計）は約7割となっています。男性よりも女性の方が誇りや愛着を感じる人の割合が高く、性年代別にみると、男性18・19歳や女性40歳代・50歳代で誇りや愛着を感じている人の割合が高くなっています。

2. 経年比較

アンケート結果の分析において、前回調査の結果との差異がみられた項目について、考察をまとめます。

■ 定住意向について

前回調査と比較して、「現在の場所に住み続けたい」が4.1ポイント増加している。

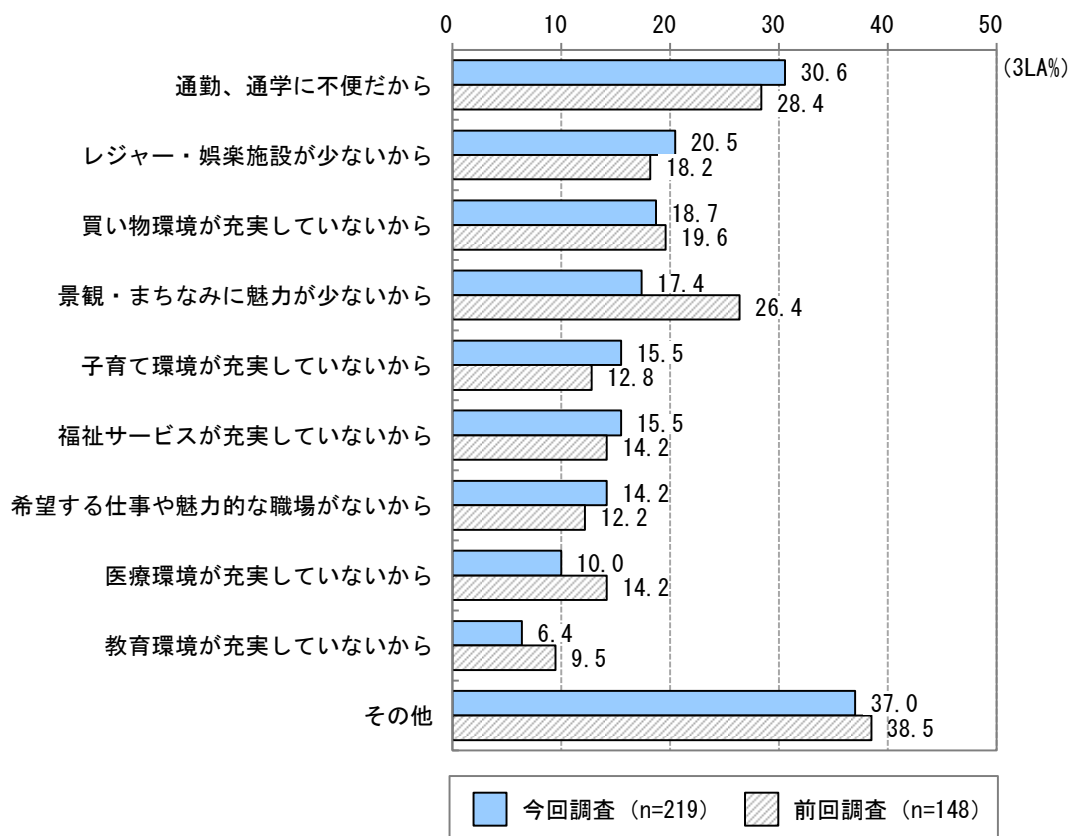


※ () 内の文言は前回調査の選択肢

■ 転居したい理由について

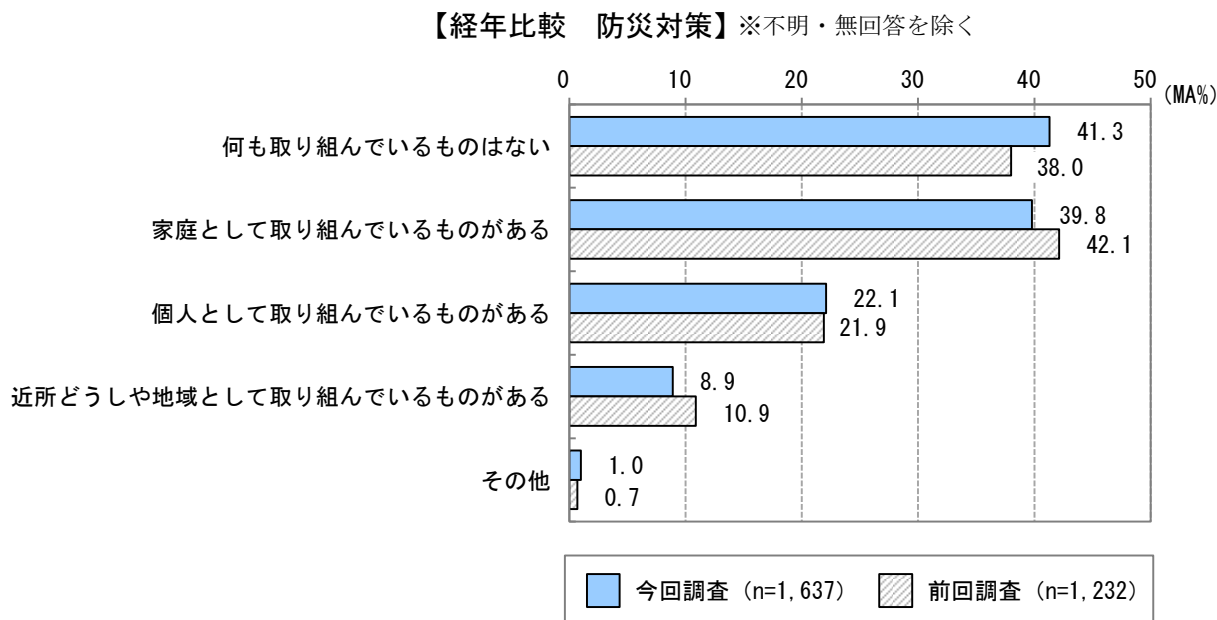
前回調査と比較して、「景観・まちなみに魅力が少ないから」が9.0ポイント、「医療環境が充実していないから」が4.2ポイント減少している。

【経年比較 転居したい理由】 ※不明・無回答を除く



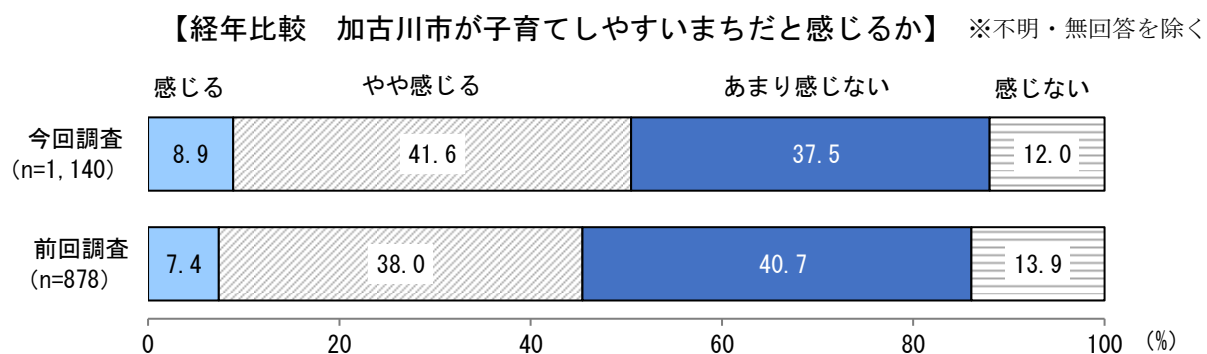
■ 防災対策について

前回調査と比較して、「何も取り組んでいるものはない」が3.3ポイント増加している一方、「家庭として取り組んでいるものがある」が2.3ポイント減少している。



■ 加古川市が子育てしやすいまちだと感じるかについて

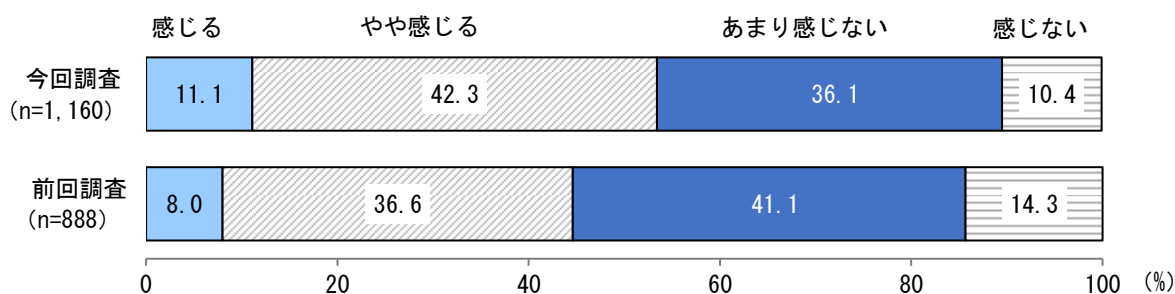
前回調査と比較して、「感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』が5.1ポイント増加している。



■ 子育てと仕事の両立についての理解について

前回調査と比較して、「感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』が8.8ポイント増加している。

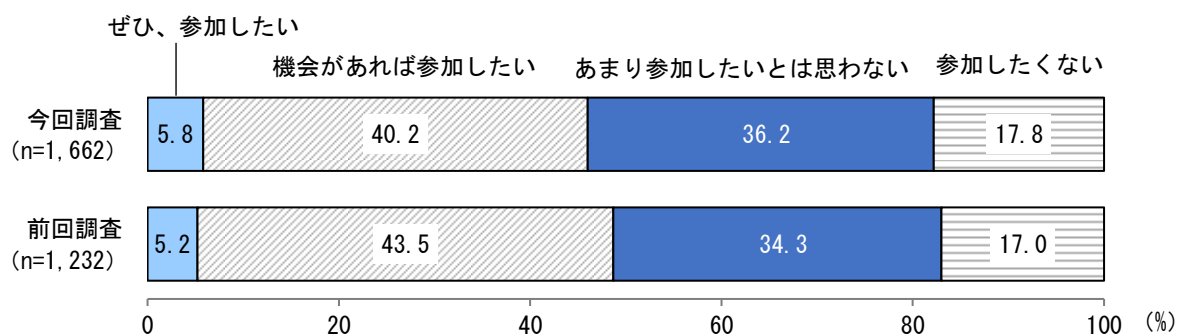
【経年比較 子育てと仕事の両立についての理解】 ※不明・無回答を除く



■ 市民活動への参加意向について

前回調査と比較して、「ぜひ、参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた『参加したい』が2.7ポイント減少している。

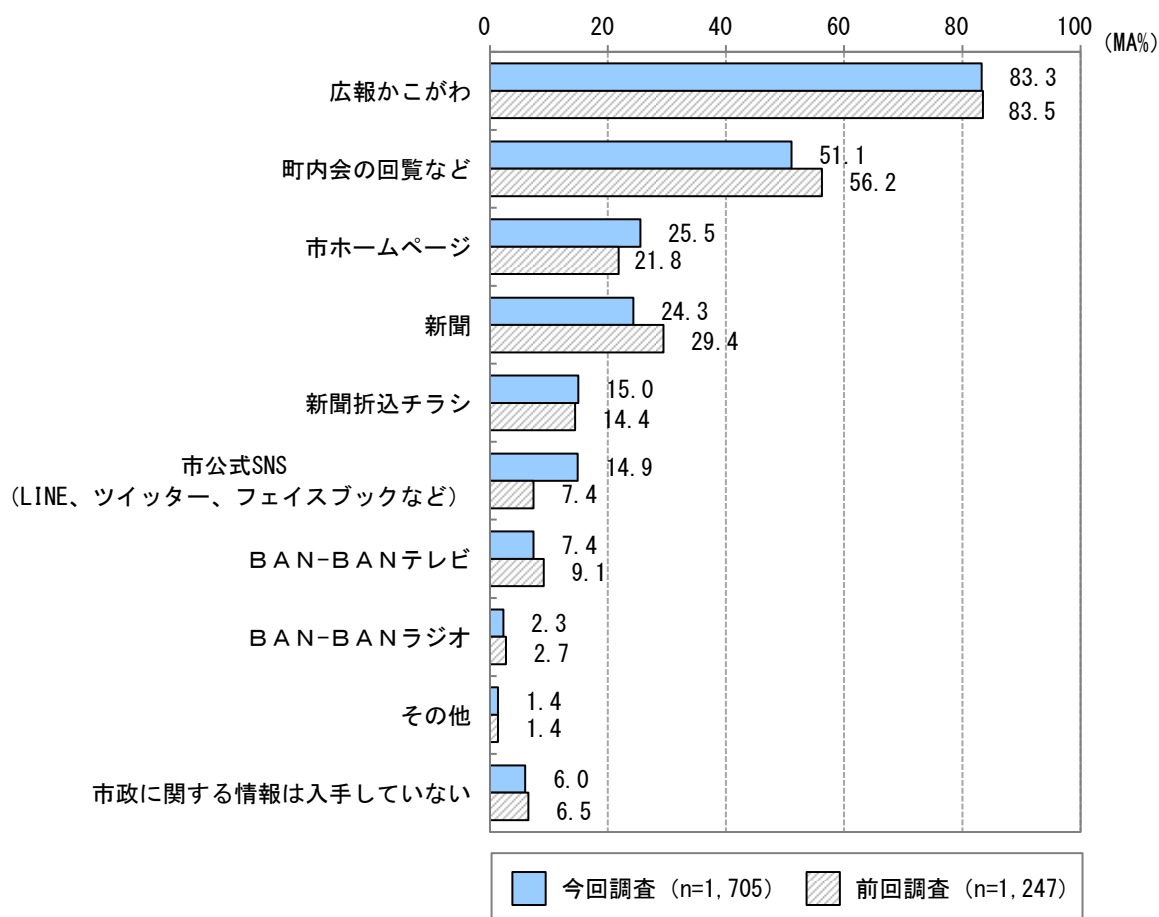
【経年比較 市民活動への参加意向】 ※不明・無回答を除く



■ 市政に関する情報の入手方法について

前回調査と比較して、「市公式SNS（LINE、ツイッター、フェイスブックなど）」が7.5ポイント、「市ホームページ」が3.7ポイント増加している一方、「町内会の回覧など」、「新聞」がともに5.1ポイント減少している。

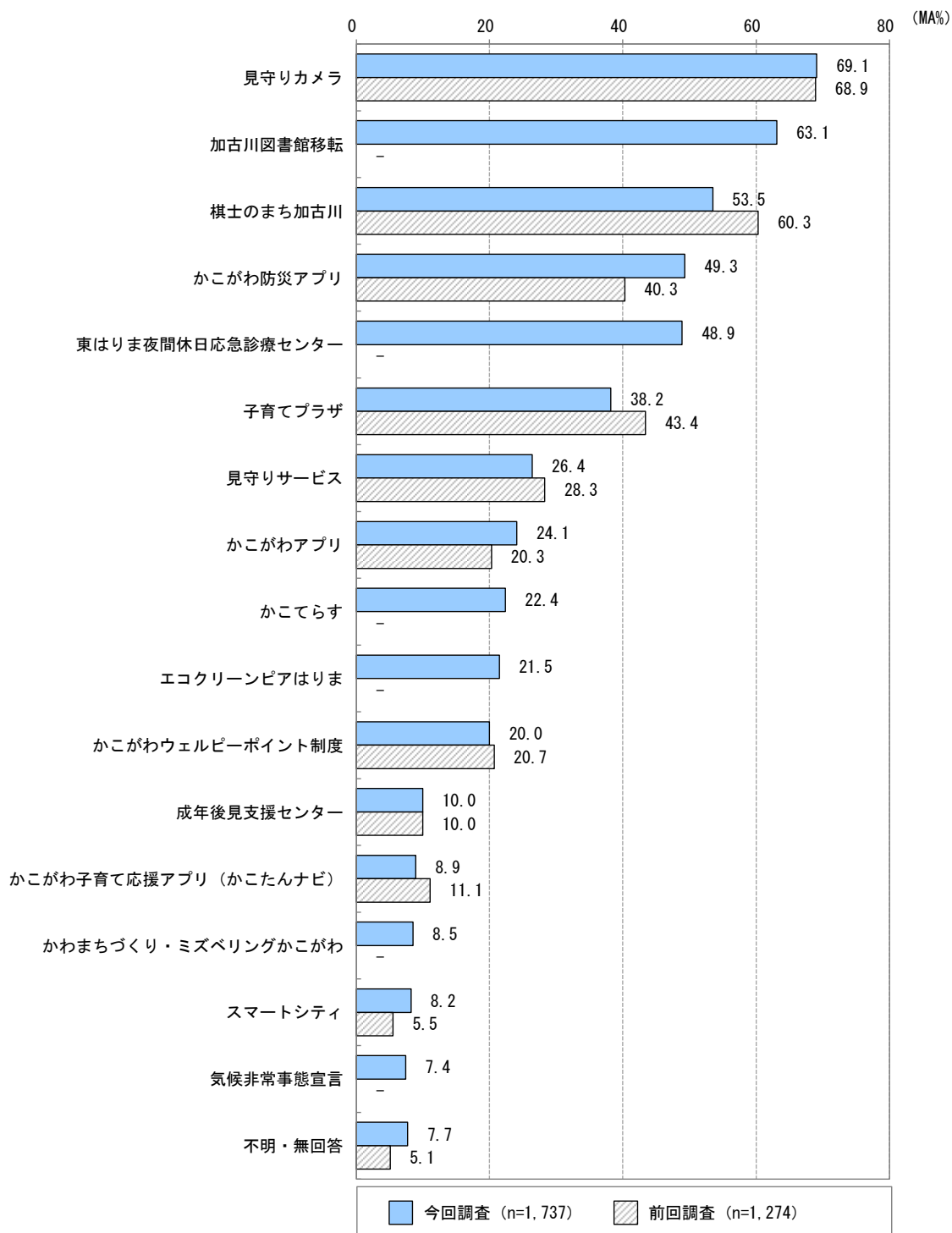
【経年比較 市政に関する情報の入手方法】※不明・無回答を除く



■ 加古川市の取組等の認知度について

前回調査と比較して、「加古川防災アプリ」が9.0ポイント、「かこがわアプリ」が3.8ポイント増加している一方、「棋士のまち加古川」が6.8ポイント、「子育てプラザ」が5.2ポイント減少している。

【経年比較 加古川市の取組等の認知度】



※数値箇所「-」がある項目は今回調査のみ